

早めの備えに生かしましょう 5日先までの台風進路予報

台風や低気圧、前線などによる大雨、暴風、高波、高潮など、日本では毎年のように自然災害が多発しています。特に、夏から秋にかけては、台風が多くなる季節。被害を少なくするためには、気象情報を有効に活用し、早めに防災対策をしておくことが必要です。気象庁では、昨年4月から5日先までの台風の進路予報を提供しています。

台風が発生したら暴風・大雨に注意

熱帯の暖かい海上で発生する低気圧を「熱帯低気圧」といいます。そのうち北西太平洋と南シナ海にあり、最大風速が秒速17メートルを超えるものを「台風」と呼びます。

台風は暖かい海からの水蒸気をエネルギーとして発生・発達する巨大な空気の渦巻きで、地上付近では中心に向かって反時計回りに強い風が吹き込みます。台風に伴い暴風や大雨が起こるほか、中心付近では気圧が下がることで海面が持ち上がり、強風で海水が海岸に吹き寄せられて高潮が発生します。

2008年4月にミャンマーに上陸したサイクロンでは、10万人を超える死者・行方不明者の大半が、高潮により流されたと考えられています。

4日・5日先の予報は

進路予報のみ

梅雨があけると台風シーズンです。平成20年は台風の発生が少なく、日本に上陸した台風はありませんでした。例年8月、9月は日本に上陸する台風が多くなる時期です。

気象庁では、台風の防災対策に役立てられるよう、これまでの台風の進路と強度について、3日先までの予報を発表してきました。これに加え、昨年の4月から、「3日先も台風」と予想される台風については、4日、5日先の予報も発表するようになりました。なお、台風の4日先、5日先の予報では、3日先までの予報のように台風の強度や暴風警戒域などの予報は行わず、進路のみの予報となります。

また、3日以内(72時間以内)に「台風」でなくなる(勢力が弱まって熱帯低気圧に変わる、構造が変わって温帯低気圧に変わる)ことが予測されるものに関しては、4日先、5日先の予報は行いません。

予報円の大きさは台風の 大きさではありません

5日先までの台風の進路予報は1日4回、午前3時、午後9時、午後3時、午後9時の6時間ごとの観測に基づいてそれぞれ観測から90分以内(2個目以降は110

分以内)に更新されます。この情報は気象庁のホームページで見ることができ、また、各報道機関の気象情報でも発表されています。予報を見るときに注意したいのが、「予報円」の大きさです。予報円とは、台風の中心がおよそ70%の確率で到達すると予想される範囲のことです。予報円が大きいと勢力が強くなると思いがちですが、予報円の大きさは台風の強度ではありません。予報期間が長くなるほど、予報円は大きくなりますが、これは台風の中心が到達すると予測される範囲が広がってしまうためです。

台風が接近すれば、情報もより確かなものに更新されます。更新は6時間ごとに行われるので、常に最新の台風予報を確認するようにしましょう。

5日先までの予報を知ること で早めの防災準備を

5日先までの台風進路予報は、3日先までの予報よりも大まかな予報にはなりますが、より早い段階から台風の進路が分かることで、災害対策の準備もより早く、計画的にできるようになります。

近年、台風に限らず局地的な大雨が降り、河川の増水やはん濫、土砂災害などが各地で多発しています。これからの季節は局地的な大雨にも警戒が必要です。台風予報とともに、地域の気象情報や警報・注意報を常に確認しましょう。

台風が接近してから屋外に出るのは大変危険です。風で飛ばされそうなのは事前に飛ばないよう固定したり、家の中にいたりするなどの対策をしておきましょう。家族で避難場所や連絡方法などを確認しておくことも大切です。

また、大雨が降ったときには山崩れやがけ崩れも起こりやすくなります。ふだんから危険な場所を確認しておき、台風や大雨のときには近づかないようにしましょう。

気象庁ホームページ

<http://www.jma.go.jp/jma>

樺東村の避難所

<http://www.vill.shinto.gunma.jp/koutu/bousai01.htm>